

発達障害の特性の理解 その1

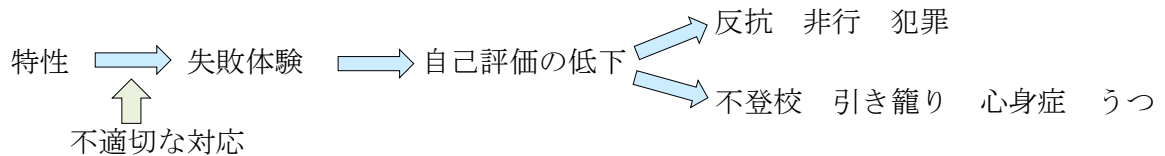
1 その前に押さえるべきこと ⇒ 「特性＝障害」ではない

○特性があっても、困っていなければ、「障害」ではない。

特性は強みでもある。ex. アインシュタイン、ビルゲーツ

○しかし、不適切な対応が積み重なると、特性 → 障害 → 二次障害へ

必要なのは「診断」ではなく、特性の理解と適切な対応である。



2 行動特性を分析する

○**診断名ありきではない。**特性についての知識は、行動の原因を探るのに必要。

診断名が先についているとは限らない。

○「すぐに手が出る子」「落ち着きがない子」「並べない子」など、**一口で表現しない。**

→ 具体的な場面で、行動特性を記録して分析する。

日付	状況・場面	子どもの状況	あなたの対応	子どもの反応
6 / 22 ..	朝の支度中、B君に何か言われた	バカ野郎と言って、叩こうとした	そんなことしちゃダメじゃないの注意して引き離そうとした	余計に興奮して、蹴ってきた
..				

○集団行動が出来ない。なんでだろう？

→ 聞こえていない？ 理解が出来ない？ 興味がもてない？ 難しすぎる？

刺激が多すぎる？ 切り替えが難しい？ ？ ？ ？

○**対応の幅が極めて狭いので、ひとつひとつ、わかりやすく、明確に指示すること。**

3 育ちの視点

○様々な特性をもった子が、周囲との相互関係の中で育っていく。

発達障害をもつ子は、養育者の反応をうまく引き出せなかったり、手がかかったりして、養育者との関係を上手に作りにくい → 不適切養育につながりやすい

○反応性愛着障害

・5歳以前に始まり、ほとんどの状況において著しく障害され、十分に発達していない対人関係

・抑制型：過度に抑制された非常に警戒したまたは非常に両価値で矛盾した反応

→ PDD的にみえる

・脱抑制型：無分別な社交性（あまりよく知らない人に対しての過度のなれなれしさ、愛着対象を選択する力の欠如） → ADHD的にみえる

4 保護者との関わり

○保護者の困り感に寄り添う。

○こちらのストーリーを押し付けない。保護者側の受け取り方も様々。

○受診を勧める前に、まず信頼関係を。学校での事実は伝える。

5 ユニバーサルデザイン

○**見通しをもたせること。視覚提示。短くわかりやすい声掛け。肯定的な表現。様々な身体の使い方。などなど、特性のある子にわかりやすいやり方は、みんなにわかりやすい。**

癸達障害の特性の理解 その2

1 境界知能／精神遅滞

- 境界域～軽度遅滞：言葉の遅れ、理解の遅れ、不器用
- 本人は結構大変（できないことが自分でわかる）→ 二次障害を起こしやすい
- 本人の理解力に合った対応が大切。**→ 適切な課題、わかりやすい言葉、単純な指示

2 自閉症スペクトラム

- 従来、高機能自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等に分類されていた一連の病状
→ **新しい診断基準DSM-5**より 社会性・コミュニケーション・想像力の障害
- 社会性の障害：空気が読めない（浮く）、場が読めない、暗黙の了解がわからない、相手の立場に立つことが直感的には難しい、人との距離感がわかりにくい、裏が読めない
- 想像力の障害：見通しが持てない（不安に満ちた世界）、こだわりの強さ、融通が利かない、興味の限局（～博士）、ごっこ遊びが少ない、急な変更や初めてのことに弱い
- 対応の基本：彼らの世界は不安に満ちている**（見通しが持てない、感覚過敏）。記憶が薄れにくく容易にフラッシュバックする（→嫌な思いをさせない、自己評価を下げない）。安心できる関係。穏やかにポジティブに接する。見通しを持たせる（→視覚的な提示は消えにくい、得意な認知を使う）。具体的な社会的スキルを教える。
- 声掛けの基本：注意を向けさせてから静かに淡々と**。肯定的な表現で行動を伝える（×廊下を走ってはいけません ○廊下を静かに歩きます）。具体的に明確に、曖昧な表現を使わない（×ちゃんと、しっかり、ちょっと ○手はおひざ、時計の針が6になったら）。一度に一つ。

3 注意欠如・多動性障害（ADHD）

- 不注意：注意を持続することが困難。直接話しかけられた時に聞いていないように見える。課題や活動を順序立てることが困難。宿題など精神的努力の持続を要する課題に従事することを避ける、嫌う。外からの刺激によって容易に注意をそらされる。毎日の活動を忘れてしまう。
- 多動性：手足をそわそわと動かす。椅子の上でもじもじする。しばしば席を離れる。余計に走ったり高いところへ上ったりする。エンジンで動かされるように行動する。しゃべり続ける。
- 衝動性：質問が終わる前に出し抜けて答え始めてしまう。順番を待つことが困難である。しばしば他人を妨害し、邪魔する（会話やゲームに干渉するなど）。
- 対応の基本：とにかく自己評価を上げる**。根拠とともにたくさんほめる（～してくれてうれしい）。見通しを持たせる。視覚的な提示（いつでも見られる）。
⇒行動を3つに分ける 好ましい行動：その場で、さらっとほめる。
好ましくない行動：見て見ぬふりをする。基本的に相手にしない。
⇒やめたらすぐほめる。いい行動に着目する。
絶対いけない行動：止める→警告する→罰を与える
⇒がんばり表 項目は少なく その場その場でほめる
できそうなこと2つ がんばればできそうなこと1つ できたらシール
- 声かけの基本：穏やかに淡々と単調に指示を繰り返す。CCQ**（どんなに騒いでも、近づいて、注意を向けさせてから、静かに淡々と）。短く、一度に一つ（早く終わんないかなあしか残らない）。肯定的な表現で正しい行動を伝える。否定的な言葉、疑問形、曖昧な表現を使わない。

4 学習障害

- 全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力のうち特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す、様々な障害。
- ディスレクシア：知的能力及び一般的な理解能力などに特に異常がないにもかかわらず、文字の読み書き学習に著しい困難を抱える障害。
- 音韻処理の障害の場合：音読指導プログラム e-learning のサイトがある。